

大学入学共通テストに挑む

英語・リスニング

有嶋 宏一
鹿児島県立
甲南高校教諭



社会的話題に触れながらリスニング力向上

■平成30年度プレテストについて

今回は平成30年度実施試験調査のリスニング第5問に注目する。技術革命と職業の関係に関する講義内容に関し、図表を活用して解答する問題だ。これはリーディングの第5問にも共通した「図表」活用問題形式である。

この問題では、生徒は細部をただ理解するだけでなく、図表に合わせて、講義の論点や詳細について再構築し、さまざまな視点から文章を捉え直す「思考力・判断力」が必要とされる。また印刷されたグラフの情報とそれまで聞いた内容を合わせて解答する問題も含まれる。まさにテキストと図表の総合問題である。

内容は「馴染みのある社会的問題」。トピックは現在頻出のAIやロボット関連であり、blue-collar/white-collarやSTEMなどの用語が使用された。もちろん、

これらの用語を知っている状態で解答すれば、理解度が上がることは言うまでもない。

大学入試センター発表の問題のねらいを見ると、学習指導要領の目標「論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表の関連などを考えながら読み取り、書いたりすること」が明記されている。今後も図表・グラフを活用した、なじみのある社会的話題についての出題が続きそうだ。そのため、教科書の内容に関連したTEDやWorld Economic Forumを授業で取り扱ったり、キーワードをメモし、表にまとめる活動を導入したりするなどの工夫が必要だろう。今後、さらに学習指導要領に示された言語活動を考慮しつつ生徒に指導していきたいところである。

■提案授業

聞いて、メモして、再生する

まずはリスニングスキルを高めるための活動の紹介である。少し長めの説明等を読んで、大事なことをメモしたり、またそのメモをもとに表にまとめたりする活動は、実はノートテイキングの技術に他ならない。アカデミックな環境では必要なスキルだが、高校生にとっては結構難しい。授業でキーワードを書きとらせる活動をして、生徒は最初、「聞きながら書いたりなんてできない!」とよく言っている。

そんなときに役立つのが、Wajnryb (1990) 紹介の Dictogloss である(注1)。この活動は、聞いた英文のキーワードをメモして、そのメモを利用して英文をペアまたはグループでディスカッションして復元する活動である。勤務校ではそれを一歩進めた活動「Dicto-Run」を行っているので、今回はそのDicto-Runを紹介する。

Dicto-Runでは、まず授業前に易しめ

の英文を準備する。教科書の既習内容をまとめた英文や同じトピックの英文の要約などが使える。また、英検の二次試験で音読する英文も適している(これもオススメ)。英文は極力4文になるように注意する(4人グループにするので、負担しやすくなる)。



キーワードから英文を再生中の生徒の様子

授業におけるこの活動の手順は表1のとおりである。なお、四つの各英文の担当を誰にするかグループ内であらかじめ決めておけば、英文確認(授業展開5)の前に各グループの同じ英文を担当する生徒が集まって確認するジグソー活動も可能になる。

1 準備	英文に未習語があれば教えておく。今回のトピックについて内容や出てくる語句を予想させる。4人グループを作る。必要があれば、何番目の文を誰が担当するか決める。
2 内容理解(1回目)	英文を全部書き取れない程度の速さで生徒に聞かせる。生徒はメモを取らずに聞き、まずは英文の内容を理解する。一回聞いた後に、グループで英文の内容について話し合っても良い。
3 メモ書き(2回目)	再び全部書き取れない程度の速さで英文を聞かせ、生徒はキーワードをメモする。一回で難しいようであれば、生徒に「もう一度聞かせて欲しい」と英語で頼むように仕向ける(練習しておく)。
4 英文復元(3回目)	生徒は、各自のメモを活用し、話し合いながら英文を復元する(内容が偏らなければ、多少文書は異なっていても良い)。必要に応じて、英文を再度聞かせる。
5 英文確認	教室の四隅にあらかじめ英文を1文ずつ印刷しておいた紙片を置いておく。4人の生徒はそれぞれ異なる場所へ移動して、英文を覚えて帰ってくる(メモなどは禁止)。何度でも英文は見に行っても良いこととする。大抵の生徒はここで走る。
6 確認	グループで英文が満足できる程度に復元できたら、自分たちがまとめた英文を教員に言う。早くちゃんと英文を復元できたグループから終了。

このDicto-Runだが、活動中に生徒がキーワードを確認しあったり、内容理解をともに深めたり、英語が得意な生徒が他の生徒に教えたりと、さまざまなことが起こる。さらに、この活動の良いところは文法的な解釈を生徒が行うことである。「現在完了じゃなかった?」「冠詞のtheが入ってなかった?」などという会話もよくしており、文法的解釈や細か

い部分の聞き取りまで生徒が自然と必要だと感じる活動になっている。この活動は月に1、2回行っているが、いつも生徒は楽しそうに行き、また何度でも英文を聞きながら(普通の授業で英文を聞きながらCDを再生したりしても、「Please let us listen again.」などと言う生徒はいない)ので、とても良い活動である。

社会的話題を深めるSDGs発表

また、長めの発表も授業で扱いたいところである。発表することによって、英文の構成などについて知ることができ、理解度が深まる。勤務校はSGHということもあり、国連の持続可能な開発目標

であるSDGsについてもよく扱っている。SDGsは17の目標で構成されており、A4やB4サイズでポスター壁発表をさせるのにちょうど良い感じでまとまっているサイトも存在する(注2)。ポスター発表やプレゼンテーションは以下のような手順を経ることが多い。

1 発表①	皆で同じ内容についてポスターを作成して発表して、どのような発表が良い発表か確認する。SDGsであれば、目標1の「No Poverty」について相互に発表しあい、良い発表についてその基準を確認する。また発表ルーブリックも確認する。
2 発表②	Information Gapを持たせるために、各自違う内容を発表するようにする。SDGsであれば、各自に目標を割り当て、異なる内容の発表をさせる。勤務校の場合は、クラスの半分(Aグループ)が、ポスターを教室の壁中に貼って発表し、残りの半分(Bグループ)がルーブリックと評価表を持って3人程度の評価を行う。ある程度の時間が過ぎれば、今度はBグループの生徒が発表し、Aグループが評価する。場合によっては、良い発表を表彰する(校長先生やALTの先生を巻き込むと盛り上がる)。

勤務校では、ポスター発表は最終的には自らの課題研究を英語で発表することを目指して行われているため、英語での発表は何度も行って生徒に発表に慣れさせる必要がある。SDGsは達成度をSocial Progress Index(SPI)という指標を用いて確認しており、SPIの各国のスコアカードも公表されている。SDGsについてのポスター発表が終わったら、先進国と発展途上国のスコアカードを比較し、各国について自ら発見した点などを発表する活動も行うことも可能だ。このような活動は一見難しくそうに見えても、生徒は興味を持って扱う。なお、SDGsを教えていれば、教科書の



同じ内容のポスターでも、生徒により作り方は異なるので、面白い

内容と関連した発展的な内容も扱いやすくなる。

(注1) Wajnryb, R. (1990). Grammar Dictations. Oxford: Oxford University Press.

(注2) <https://www.un.org/sustainabledevelopment/why-the-sdgs-matter/>

第5問 (配点: 30)

第5問は第1問~第4問の2問です。講義を読み、それぞれの問いの答えとして最も適切なものを、選択肢のうちから選びなさい。状況と問いを逐次時間経過して読み進められた後、音声が流れます。1問読みます。

状況

あなたはアメリカの大学で、技術革命と職業の関係について、ワークシートにメモを取りながら、講義を聞いています。

ワークシート

○ The impact of technological changes*

*artificial intelligence (AI), robotics, genetics, etc.

By 2020

Technological change → + gain / - loss → Overall result: 25

○ Kinds of labor created or replaced

Job category	Technological development	Change: create or replace	Kind of labor: mental or physical
Machinery	machines	26	27
	robots	28	28
Today	robots	29	29
	AI	30	31

問1 (a) ワークシートの空欄 25 にあてはめるのに最も適切なものを、六つの選択肢(①-⑥)のうちから一つ選びなさい。

- ① a gain of 2 million jobs
- ② a loss of 2 million jobs
- ③ a gain of 5 million jobs
- ④ a loss of 5 million jobs
- ⑤ a gain of 7 million jobs
- ⑥ a loss of 7 million jobs

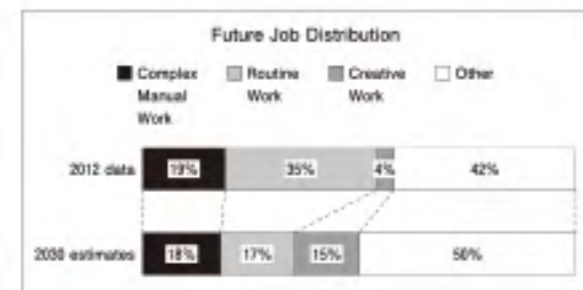
問1 (b) ワークシートの空欄 26 - 31 にあてはめるのに最も適切なものを、四つの選択肢(①-④)のうちから一つ選びなさい。選択肢は2回以上使ってもかまいません。

- ① create
- ② replace
- ③ mental
- ④ physical

問1 (c) 講義の内容と一致するものはどれか。最も適切なものを、四つの選択肢(①-④)のうちから一つ選びなさい。

- ① Machines are beginning to replace physical labor with the help of robots.
- ② Mainly blue-collar workers will be affected by the coming technological changes.
- ③ Two-thirds of the number of women working in an office will lose their jobs.
- ④ White-collar workers may lose their present jobs because of AI developments.

問2 講義の続きを読み、下の図から読み取れる情報と講義全体の内容から、どのようなことが言えるか。最も適切なものを、四つの選択肢(①-④)のうちから一つ選びなさい。



- ① Complex manual work will be automated thanks to the technological revolution.
- ② Jobs in the STEM fields will not increase even though they require creative work.
- ③ Mental work will have the greatest decrease in percentage.
- ④ Not all physical work will be replaced by robots and AI.

【第5問 スクリプト】

Questions No. 1 (a), 1 (b), and 1 (c)

What kind of career are you thinking about now? Research predicts developments in artificial intelligence, robotics, genetics, and other technologies will have a major impact on jobs. By 2020, two million jobs will be gained in the so-called STEM fields, that is, science, technology, engineering, and mathematics. At the same time, seven million other jobs will be lost.

This kind of thing has happened before. Jobs were lost in the 19th century when mass production started with the Industrial Revolution. Machines replaced physical labor, but mental labor like sales jobs was generated. Today, many people doing physical labor are worried that robots will take over their roles and that they will lose their current jobs. This time, the development of AI may even eliminate some jobs requiring mental labor as well. Actually, we know that robots are already taking away

blue-collar factory jobs in the US. Moreover, because of AI, skilled white-collar workers, or intellectual workers, are also at "high risk." For example, bank clerks are losing their jobs because computer programs now enable automatic banking services. Even news writers are in danger of losing their jobs as AI advances enough to do routine tasks such as producing simple news reports.

As I mentioned earlier, seven million jobs will be lost by 2020. Two-thirds of those losses will be office jobs. Since most office jobs are done by women, they will be particularly affected by this change. What's more, fewer women are working in the STEM fields, so they will benefit less from the growth in those fields.

Question No. 2

Let's take a look at the graph of future job changes. Complex manual workers, like cooks and farmers, are different from routine workers in factories and offices. Creative workers include artists and inventors. So, what can we learn from all this?

2019 第6回

夏の教育セミナー

主催：日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)



大学入試改革をリードする有識者が多数登壇!

英・数・国に「探究」を加えた、充実の分科会!

基調講演 大学入試改革の講演

義本 博司
白井 俊
田村 学

独立行政法人大学入試センター 理事
独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括補佐官(兼)審議役
國學院大学 人間開発学部 初等教育学科 教授



義本 博司氏 白井 俊氏 田村 学氏

特別講演 大学担当者による講演

東京大学 理事・副学長 福田 裕穂 東京一橋大学 学長 補佐 三隅 隆司 早稲田大学 入試開発オフィス長 小森 宏美 慶應義塾大学 入学センター部長 寺島 博之 京都大学 理事補 木南 敦 大阪大学 副学長 豊田 敏聡 関西学院大学 アドミッション オフィサー 尾木 義久 同志社大学 入学センター 所長 多和田 英樹 北海道大学 理事・副学長 長谷 川 晃 埼玉大学 理事・副学長 重原 孝臣 大宮/九州大学 理事・副学長 丸野 俊一 福岡/名古屋大学 副学長 佐久間 淳一 横浜国立大学 理事・副学長 根上 生也 横浜/金沢大学 理事・副学長 柴田 正良 金沢/神戸大学 理事・副学長 岡田 章宏 神戸/広島大学 理事・副学長 宮谷 真人 広島/ほか

*東京・大阪会場は分科会として実施。

分科会 教科別の授業実践

英語

安河内 哲也 (東進ハイスクール・東進衛星予備校講師) 東京 福岡 名古屋 横浜 大阪 広島
山本 崇雄 (新渡戸文化学園高校) 札幌 金沢
富永 幸 (滋賀県立膳所高校教諭) 神戸 千葉 / ほか



数学

酒井 淳平 (立命館宇治高校) 札幌 千葉
鶴田 貴司 (東山高校) 東京 福岡
堀内 陽介 (尾路学園高校) 大宮 仙台 / ほか



国語

河口 竜行 (渋谷教育学園渋谷高校) 名古屋 広島
湯尾 健児 (三田国際学園高校 校長) 東京 大阪
若田 真志 (東京都立西高校) 大宮 横浜 / ほか



探究 new!

中島 博司 (茨城県立木中中等教育学校 校長) 東京 福岡
稲垣 桃子 (立命館宇治高校) 大宮 金沢 / ほか



講演者情報は随時更新します。詳細はホームページをご覧ください。

夏の教育セミナー summer-seminar.com

夏の教育セミナー 検索

